〈訳注研究〉

『プトン佛教史』試訳（1）

上　野　牧　生

はじめに

本稿は、プトン・リンチェンドゥプ（Bu ston Rin chen grub, 1290–1364）によって1322年から1326年の間に著わされた『プトン佛教史』（*Bu ston chos 'byung*）の試訳研究である。『プトン佛教史』―正式名称は *bDe bar gshegs pa'i bstan pa'i gsal byed chos kyi 'byung gnas gsung rab rin po che'i mdzad ces bya ba* 善逝の教えを明らかにする法の源泉である経宝の蔵と名づけられたもの―は、プトン自身による佛教概論に加え、インド佛教とチベット佛教との最も優れた年代記（Chronicle）のひとつとして、また、14世紀前半の翻訳佛典目録を備えるものとして知られている（先行研究については VAN DER KUIJP 2013: 119などに詳しい）。本書は以下の四つの章（le'u）から構成されている。

1. 'chad nyan la 'jug tshul nges par bstan pa
   （説明と聴聞に入る方法を確定して説く：佛教概論）
2. spyir 'jig rten du chos byung tshul
   （一般に世間において法が生まれた有様：インド佛教史）
3. bod du chos byung tshul
   （チベットにおいて法が生まれた有様：チベット佛教史）
4. chos kyi rnams grangs dkar chag tu bris pa
   （法門を目録として記す：翻訳佛典目録）

以上の章分けとは別に、プトン自身によって本書に科段が施されている。

Ⅰ. dam pa'i chos mnyan pa dang bshad pa'i phan yon rig par bya ba

（正法を聴聞すること・解説することの利益を理解すべきであること）

Ⅱ. gang mnyan pa dang bshad par bya ba'i chos ngos gzung ba
（聴聞すべき〔法〕・解説すべき法とは何かを把握すること）

Ⅲ. de la nyan bshad tshul ji ltar sgrub cing nyams su blang ba
（それを聴聞し解説する方法をどのように実践し修習するかということ）

Ⅳ. bsgrub bya'i chos ji ltar byung ba'i tshul
（実践すべき法がどのように生じたかという有様）

Ⅰ.からⅢ.が第１章に、Ⅵ.が第２、第３章に対応する。この中で、本稿が対象とするⅠ.について、さらに以下の科段が施されている（科段の分節番号はOBERMILLER 1931に基づく）。

IA. spyir dam pa'i chos nyan bshad kyi phan yon（一般に正法を聴聞し解説することの利益）

IAa. mnyan pa'i phan yon（聴聞することの利益）

IAb. bshad pa'i phan yon（解説することの利益）

IAba1. ston pa sangs rgyas la mchod pa bla na med par 'gyur ba（教主である佛陀に対する供養を無上にすること）

IAbb1. zang zing gi sbyin pa las mchog tu gyur cing | phan 'dogs pa'i mchog yin pa（財物の布施によって最上のものとなって、裨益する最上のもの〔となること〕）

IAbc1. gzungs dang rig pa thob pa（〔教説の〕保持と〔漏尽・宿命〕知とを得ること）

IAbd1. bsod nams 'phel bas byang chub thob pa（福徳を増加して菩提を得ること）

IAc. gnyis ka'i phan yon（〔聴聞すること・解説すること〕双方の利益）

IAca1. theg pa gsum gyis khams rtas pa（三乗により界を生育すること）

IAcb1. mkhas par gyur pas kun gyis bkur ba（智者となり全方位から恭敬されること）

IAcc1. bstan pa gzung bas byang chub thob pa（教説の保持により菩提を得ること）

本試訳の範囲とその主題

本稿に掲載される試訳は、大谷大学図書館所蔵のタシルンポ版（蔵外 no. 11842）に基づく。また、試訳の範囲は、上記Ⅰ. の科段のうち、わずかにIAa. のみであり、『プトン佛教史』の各版およびE. Obermillerによる先行研究では以下の範囲に相当する（ただし、本稿に掲載される試訳に帰敬偈は含まれていない。帰敬偈については別稿を期す）。

- 大谷大学図書館所蔵のタシルンポ版（蔵外 no. 11842）：3a3–5a1
- ラサ版（ショル版）プトン全集 vol. 24（ya）：2b7–4b2
- Rdo rje rgyal po (Ed.), *Bu ston chos 'byung*. Beijing: Krung go bod kyi shes rig dpe skrun khang, 1988の活字本：3.1–5.19
  ［中国語表題：布頓・仁欽竹（著）、多吉杰博（編）『布頓佛教史』、北京：中国蔵学出版社］
- Obermiller 1931: 8–11[(1)]

本試訳が対象とするIAa. の主題は、mnyan pa'i phan yon（聴聞することの利益）との科段が示すとおり、「佛説を聴聞することの利益」である。本節はIA. **spyir** dam pa'i chos nyan bshad kyi phan yon（一**般に**正法を聴聞し解説することの利益）に属し、IA. に後続するIB. **khyad par** theg pa chen po'i chos kyi nyan bshad kyi phan yon（**特に**大乗の法の聴聞・解説の利益）が大乗経典を聴聞することの利益を説く点から、IA. における「一般に」（spyir）という但し書きは声聞乗経典（阿含経典）ないし大乗経典を除く佛説一般を聴聞することの利益を示すものと推測される。そしてIAa. は全面的にヴァスバンドゥの『釈軌論』（*rNam* ［*par*］ *bshad* ［*pa'i*］ *rigs pa, Vyākhyāyukti*, VyY）第5章からの引用によって構成されている[(2)]。一覧にして以下に示す。

---

(1) 先行研究によれば、E. Obermillerによる英訳はタシルンポ版に基づく（西岡 1980：64, n.5; Szerb 1990: XIV; van der Kuijp 2016: 227, n.70）。

(2) 『釈軌論』第5章の主題は「〔佛説／法を〕敬意をもって聴くこと」（gus par ［m］nyan pa, *śuśrūṣā）である。詳細は上野・堀内 2018を参照。『プトン佛教史』［IAa.］における『釈軌論』の引用例は全てObermiller 1931によって特定されている。

本稿が与える通し番号	『プトン佛教史』の論題	引用の形式	引用される文献
【1】	聴聞の四つの利益	要約的引用	VyY 5.2.5
【2】	聴聞の五つの利益	要約的引用	VyY 5.2.4
【3】	更なる五つの徳性	逐語的引用	VyY 5.2.15
【4】	水の喩え	逐語的引用	VyY 5.2.11
【5】	火の喩え	逐語的引用	VyY 5.2.12
【6】	安全な岸辺の喩え	逐語的引用	VyY 5.2.13

なお、本試訳の範囲内において、要約的に引用される『釈軌論』の記述については、テクストとその和訳を脚注に提示する。ただし、逐語的に引用される『釈軌論』の記述については、脚注においてチベット訳テクストのみを提示し、重複を避けるためその和訳を割愛する。さらに、脚注に提示するそのテクストについては、『釈軌論』本論と注釈者グナマティによる『釈軌論注』（*rNam par bshad pa rigs pa'i bzhad pa, Vyākhyāyuktiṭīkā*）とのデルゲ版・北京版を校合したテクストを提示するが、諸版の異読については基本的に注記を省略する。(3)

凡例

試訳の中に以下の各版の位置を示す記号を挿入する。

［1a］＝大谷大学図書館所蔵のタシルンポ版（蔵外 no. 11842）の葉数

［L.1a］＝ラサ版（ショル版）プトン全集 vol. 24（ya）所収本の葉数

［P.1］＝『布頓仏教史』の頁数

［IAa.］＝Obermiller 1931, 1932の章節番号

【1】＝『プトン佛教史』に引用される先行文献に与える通し番号

試訳

［P.3］さて、我々［L.3a］の師、シャーキャ〔族〕の王は、神足の四つの支隊からなる軍団をそなえており、幟（標旗）をもっているマカラの軍隊を打ち負かし、四摂事により教化対象者（所化）を成熟と解脱との場に集めて、すべての法輪をあらゆる方法で回す、特にすぐれた法の王である。かの法による政治

(3) 『プトン佛教史』の各版とテクストの読みが著しく異なる場合のみ、『釈軌論』各版の異読を注記する。

（chos srid）、偉大なる摂政（rgyal tshab）たちにより、正しく善く護られたこの善きやり方（srol）は、神々を含むあらゆる衆生たちにとって利益と安楽との根拠（gzhi）となるものである。したがって、その方法を喜んで保持するがよい。さらに、それには解説・実践（bshad sgrub）の両者以外に方法はないのだから、また、実践あるいは説明・聴聞（'chad nyan）を前提とするものであるから、説明・聴聞に入る方法を確定すべきである。

四つの章がある。

［Ⅰ.］正法を聴聞することと解説することの利益を理解すべきであること。

［Ⅱ.］およそ聴聞すべき、解説すべき法とは何かを把握すること。

［Ⅲ.］それを聴聞し解説［3b］する方法をどのように実践し修習するかということ。

［Ⅳ.］実践すべき法がどのように生じたかという有様。

［Ⅰ.］第一に、［A.］一般に正法を聴聞し解説する利益と、［B.］特に大乗の法を聴聞し解説する利益とのふたつの中で、［A.］最初の中で、［a.］聴聞〔の利益〕、［b.］解説〔の利益〕、［c.］〔その〕双方の利益の三つのうちのひとつめ（聴聞の利益）は、［IAa.］『菩薩蔵〔経〕』（*Bodhisattvapiṭaka*）[(4)]に、

【1】①聞いて、諸の道理（法）を知り、
②聞い［P.4］て、悪から遠ざかる。
③聞いて、不利益を捨て、
④聞いて、涅槃を得る。[(5)]

(4)　西岡 1980：No. 139。

(5)　プトンが明示するように、チベット訳『菩薩蔵〔経〕』（*Byang chub sems dpa'i sde snod*）の第10章（Obermiller 1931: 9, n. 48によればP 160b5）、および漢訳『大宝積経』（No. 310）所収の玄奘訳『大菩薩蔵経』「静慮波羅蜜品」では、二度にわたりこの韻文が言及される。T11, 296c23-24; 297b15-17：

①多聞解了法　②多聞不造悪　③多聞捨無義　④多聞得涅槃

ただし、この韻文の出典は通例、『ウダーナヴァルガ』（*Ched du brjod pa'i tshoms, Udānavarga,* Uv）とみなされる。事実、『プトン佛教史』の当該箇所を踏襲したと思われるツォンカパの『菩提道次第小論』（3.1.1）では、出典が thos pa'i tsoms（〔『ウダ

と説かれている。その内容について、『釈軌論』（*Vyākhyāyukti*）[(6)] では、

この四〔詩〕脚によって、順次、

①〔佛教〕内外の学説を知った上で、取捨すべきところを知ること、

②戒学処を得て、［L.3b］悪行から遠ざかること、

③思学処を得て、不利益である欲望を捨てること、

④慧学処を得て、それ（慧学処）に依拠して漏尽を現証して、涅槃を得ること、

以上の四つ（＝第１解釈）か、あるいは、

①正見を得ること、

②業〔雑染〕と

③煩悩〔雑染〕と

④生雑染とを超克すること

〔という〕四つ（＝第２解釈）、または、

①〔如来がお説きになられた〕法と律への信を得ること、

②出家すること、

③感官の門を護ることによって、欲〔界〕離貪のために、障碍を捨てること、

④真実の証得に基づいて涅槃を得ること

ーナヴァルガ』の〕聴聞篇 Śrutavarga）と明記されている（*Lam rim chung ngu* 36.20–37.7；ツルティム・藤仲 2005:41, n.1）。そしてプトン（およびツォンカパ）所引の韻文は、２系統あるUvの伝承のうち、チベット訳Uvおよび『瑜伽師地論』（*rNal 'byor spyod pa'i sa, Yogācārabhūmi*）所引の系統に一致する（ツルティム・藤仲 2005では別系統の韻文が誤って指示されている）。

① thos pas chos rnams rnam par shes ‖ ② thos pas sdig las ldog par 'gyur ‖
③ thos pas don med spong bar byed ‖ ④ thos pas mya ngan 'das pa 'thob ‖
（Uv(tib.) 22.6）

① śrutvā dharmāṃ vijānāti ② śrutvā pāpaṃ nivarttate |
③ śrutvā hy anarthaṃ tyajati ④ śrutvā prāpnoti nirvṛtim ‖
（Śarīrārthagāthā 22, Enomoto 1989: 30f.）

この韻文は『釈軌論』第５章に引用され、そこではヴァスバンドゥにより詳細な注釈が与えられている。そして、プトンがその『釈軌論』における注釈を引用することから（注(7)参照）、『菩薩蔵経』からではなく『釈軌論』第５章からの孫引きであることは明らかである。あるいは、『釈軌論』に出典が明示されていないため、その補足を意図して『菩薩蔵経』の名を挙げた可能性もあろうか。

(6) 西岡 1981：No. 723。

〔という〕四つ（＝第３解釈）である、と解説されている。[(7)]

---

(7) 注(5)で言及した韻文も含め、『釈軌論』第５章からの引用である。当該箇所では、①がもたらす利益を「聴聞による正見の獲得」とし、②から④に三学処を配当する第１解釈、①は同様であるが②から④に三雑染からの超克を配当する第２解釈、戒蘊定型句を有する『ニャグローダ経』などに示される①佛説の聴聞による信の獲得→②出家→③十善業道の実践による感官の守護・四禅・四諦現観→④涅槃の獲得へと次第する第３解釈が示されるが、第１解釈については『釈軌論』の記述を大幅に要約する形で引用されている。VyY, D shi 117a7-118a3; P si 136b3-137a8:

yang ci'i phyir zhe na | bcom ldan 'das kyis |

① thos pas chos rnams shes par 'gyur || ② thos pas sdig las ldog par 'gyur ||

③ thos pas don med spong bar 'gyur || ④ thos pas mya ngan 'das pa 'thob ||

ces gsungs pas so ||

de la ①ji ltar na thos pas chos rnams shes par 'gyur zhe na | 'di lta ste | 'di na kha cig de bzhin gshegs pas gsungs pa'i chos 'dul ba thos na yang dag pa'i tshul khrims dang | ting nge 'dzin dang | shes rab yongs su ston pa gang yin pa 'di de kho na chos yin gyi | gzhan mu stegs can gyis smras pa me dang chur 'jug pa dang | zas mi za ba dang | brtul zhugs drag po dang | 'tshe ba dang | mchod sbyin la sogs pa yongs su ston pa ni ma yin no zhes rnam par shes so ||

②ji ltar na thos pas sdig pa las ldog par 'gyur zhe na | 'di lta ste | 'di na kha cig de bzhin gshegs pas gsungs pa'i chos 'dul ba las lhag pa'i tshul khrims kyi bslab pa thos na | de la brten pas nyes par spyod pa las ldog go ||

③ ji ltar na thos pas don med pa spong bar 'gyur zhe na | 'di lta ste | 'di na kha cig de bzhin gshegs pas gsungs pa'i chos 'dul ba las lhag pa'i sems kyi bslab pa thos na | de la brten pas gang dag la byis pa rnams don du 'du shes pa 'dod pa don med par gyur pa rnams spong bar 'gyur ro ||

④ ji ltar na thos pas mya ngan las 'das pa 'thob ce na | 'di lta ste | 'di na kha cig de bzhin gshegs pas gsungs pa'i chos 'dul ba las lhag pa'i shes rab kyi bslab pa thos na | de la brten pas zag pa zad pa mngon sum du byed do ||

'dis ni dam pa'i chos mnyan pa la phan yon rnam pa bzhi po ①yang dag pa'i lta ba rnyed pa dang | bslab pa gsum la yang dag par brten pas ②sdig pa las yang dag par rgal ba dang | ③'dod pa las yang dag par rgal ba dang | ④yang srid pa las yang dag par rgal ba yod par go rims bzhin du yongs su bstan to ||

yang nyon mongs pa'i gnod pa'i rgyus phan yon rnam pa bzhi po ①yang dag pa'i lta ba rnyed pa dang | ②las kyi kun nas nyon mongs pa las rgal ba dang | ③nyon mongs pa'i kun nas nyon mongs pa las rgal ba dang | ④skye ba'i kun nas nyon mongs pa las rgal ba yod par yongs su bstan to ||

yang rnam pa bzhi ste | ① de bzhin gshegs pas gsungs pa'i chos 'dul ba la dad pa rnyed pa dang | ② rab tu 'byung ba dang | ③ dbang po'i sgo bsrungs pa nyid kyi rim pas bsam gtan bzhi pa'i bar du ste | de ni 'dod pa'i khams las 'dod chags dang bral ba'i phyir | gnod pa spong ba dang | ④ 'phags pa'i bden pa yang dag pa ji lta ba bzhin du rab tu shes pa'i rim pas zag pa zad pa'i bar du ste | n+ya gro dha la sogs pa'i mdo sde rnams kyis bsgrub par bya'o ||

de ltar phan yon rnam pa mang po yang dag par mthong ba nyid kyis gus par chos mnyan par bya'o ||

【問】さらに、なぜ〔敬意をもって聴くべきであるの〕か？【答】世尊が、

①聞いて、諸の道理（法）を知り、②聞いて、悪から遠ざかる。

③聞いて、不利益を捨て、④聞いて、涅槃を得る。

と仰られたからである。

【第１解釈】【問】その中で、どのように、①聞いて、諸の道理を知るのか？

【答】この世において、ある者たちは、如来がお説きになられた法と律を聞いたならば、「正しい戒、〔正しい〕定、〔正しい〕慧が説かれたが、それこそが法なのであり、他の外教徒たちの説く、火や水〔の中〕に入ること、断食、激しい苦行、傷害、祭式などを説くのは〔法では〕ない」と知る。

【問】どのように、②聞いて、悪から遠ざかるのか？

【答】この世において、ある者たちは、如来がお説きになられた法と律において、増上戒学を聞いたならば、それ（増上戒学）に依ることによって、悪行から遠ざかる。

【問】どのように、③聞いて、不利益を捨てるのか？

【答】この世において、ある者たちは、如来がお説きになられた法と律において、増上心学を聞いたならば、それ（増上心学）に依ることによって、愚者たちが利益と想っている、〔実際は〕不利益となる、諸の欲望の対象を捨てる。

【問】どのように、④聞いて、涅槃を得るのか？

【答】この世において、ある者たちは、如来がお説きになられた法と律において、増上慧学を聞いたならば、それ（増上慧学）に依ることによって、漏尽を現証する。

【第１解釈のまとめ】これ（当該偈）によって、正法を聴くことの四種の利益、〔すなわち〕①正見を得ること、三学に正しく依ることで、②悪を超克すること、③欲望の対象を超克すること、④再有を超克することがあると、順次、示された。

【第２解釈】また、煩悩を打ち破るという原因によって、四種の利益、〔すなわち〕①正見を得ること、②業の汚れ（*karmasaṃkleśa）を超克すること、③煩悩の汚れを超克すること、④生の汚れを超克することがあると示された。

【第３解釈】さらに、四種〔の利益〕がある。①如来がお説きになられた法と律への信を得ること、②出家すること、③感官の門を護ることという次第によって第四静慮に至るまで〔を得ること〕である。彼は、欲界離貪のために、障碍を捨て、④聖諦を如

『釈軌論』には、

【2】世尊は法の聴聞にある五つの利益を説かれた。

①未だ聞いたことのないことを聞くこと、

②聞いたことに熟達すること、

③疑念を捨てること、

④見解をまっすぐにすること、［4a］

⑤智慧によって深い意味とことばとを理解することである。[8]

とある。その内容は、

①広範に聞くこと、

②明快で汚れがないようにすること、

③確信を得ること、

④正しく理解すること、

⑤真実を証得すること

の五つである。最初のふたつ（①②）によって聞慧を浄化し、次のふたつ（③④）によって思慧を浄化し、最後〔のひとつ〕（⑤）によって修慧を浄化することが示されている。[9]

実に知るという次第によって漏尽に至るのである。『ニャグローダ〔経〕』などの諸経典によって論証すべきである。

このとおり、多種の利益が現に見られるということから、敬意をもって法を聴くべきである。

(8) 当該箇所の①から⑤は『増一阿含』（*Ekottarikāgama*）の文言である。説一切有部に帰属する諸文献において「聴聞の利益」が語られる際、伝統的に取り上げられるものである。上野・堀内 2018を参照。

(9) 「世尊は法の聴聞にある五つの利益を説かれた」から「⑤智慧によって深い意味とことばとを理解することである」までは『釈軌論』第５章からの逐語的引用であり、「その内容は」から「修慧を浄化することが示されている」までは要約的引用である。

VyY, D shi 116b4–117a7; P si 135b6–136b3:

bcom ldan 'das kyis chos mnyan pa la phan yon lnga gsungs te |

① ma thos pa thos par 'gyur ba dang |

② thos pa yongs su byang bar 'gyur ba dang |

③ som nyi spong ba dang |

④ lta ba drang por byed pa dang |

⑤ shes rab kyis don dang | tshig zab mo rtogs par 'gyur ba'o ||

de la ① ji ltar na ma thos pa thos par 'gyur ba yin zhe na | thog ma med pa can gyi 'khor ba nas bstan bcos gzhan thams cad las ma thos pa phung po dang | skye mched dang | khams dang | rten cing 'brel bar 'byung ba dang | 'phags pa'i bden pa dang | dran pa nye bar gzhag pa dang | yang dag par spong ba dang | rdzu 'phrul gyi rkang pa dang | dbang po dang | stobs dang | byang chub kyi yan lag dang | dbugs rdubs pa dang 'byung ba dran pa dang | bslab pa dang | shes nas dad pa rnam par gzhag pa dang | kun nas nyon mongs pa dang rnam par byang ba'i chos rnams kyi rang dang spyi dang | rgyu dang 'bras bu'i mtshan nyid phyin ci ma log pa ston pa dang | bdag nyid du smra ba'i*1 nye bar len pa spong ba yongs su ston pa dang | gang zag slob pa dang mi slob pa'i bar du dbye ba dang | che ba'i bdag nyid dang | dge sbyong gi 'bras bu dang | rnam par thar pa dang | zil gyis gnon pa'i skye mched dang | zad par gyi skye mched dang | nyon mongs pa med pa dang | smon nas shes pa la sogs pa dang | de bzhin gshegs pa'i stobs dang | mi 'jigs pa dang | sangs rgyas kyi chos ma 'dres pa dang | che ba'i bdag nyid la sogs pa gang yin pa de thos par 'gyur ro || de ltar na ma thos pa thos par 'gyur ro ||

② ji ltar na thos pa yongs su byang bar 'gyur zhe na | sangs rgyas 'byung ba gzhan dag las sam | 'dir thos pa brjod dam | dri ma can du gyur pa gang yin pa de mnyan pas gsal bar byed cing dri ma med par byed do || de ltar na thos pa yongs su byang bar 'gyur ro ||

③ ji ltar na som nyi spong bar 'gyur zhe na | de sems pa na the tshom 'byung ba gang yin pa de chos mnyan pas nges pa 'thob bo ||

④ ji ltar na lta ba drang por byed ce na | 'dis sems pa na log par rtog pa 'byung ba gang yin pa de yang dag par rtog go ||

⑤ ji ltar na shes rab kyis don dang tshig zab mo rtogs par 'gyur zhe na | rten cing 'brel bar 'byung ba'i chos nyid gang thos nas | chos nyid rtogs par 'gyur zhing | 'phags pa'i bden pa mngon par rtogs par byed do ||

phan yon lnga po 'di dag gis shes rab gsum yongs su dag par bstan pa yin te | ① ma thos pa thos par 'gyur ba dang | ② thos pa yongs su byang bar 'gyur ba gang yin pa des ni thos pa las byung ba'i shes rab yongs su dag par 'gyur ro ||

③ som nyi spong ba dang | ④ lta ba drang por byed pa gang yin pa des ni bsams pa las byung ba'o ||

⑤ shes rab kyis don dang | tshig zab mo rtogs par 'gyur ba gang yin pa des ni bsgoms pa las byung ba'i shes rab yongs su dag par 'gyur ro ||

phan yon 'di dag yang dag par mthong bas dam pa'i chos mnyan pa la gus par mnyan par bya'o ||

*1 bdag nyid du smra ba'i VyYṬ(DP) : bdag tu lta ba'i VyY(DP)

世尊は法の聴聞にある五つの利益（*anuśaṃsā）を説かれた。
①未だ聞いたことのないことを聞くこと、②聞いたことに熟達すること、③疑念を捨てること、④見解を真っ直ぐにすること、⑤智慧によって深い意味とことばとを理解することである。
【問】その中で、どのように、①未だ聞いたことのないことを聞くのか？
【答】無始爾来の輪廻において、〔佛教〕以外のあらゆる教典（bstan bcos）では聞いたことのない、〔五〕蘊、〔十二〕処、〔十八〕界、〔十二支〕縁起、〔四〕聖諦、〔四〕念処、〔四〕正断、〔四〕神足、〔五〕根、〔五〕力、〔七〕覚支、息念、学処、証浄の設定*1、雑染と清浄の諸法の、自〔相〕・共〔相〕、顚倒のない因果の相の教示と、我語取*2の断の教示と、有学・無学の人物の区別・偉大性と、沙門果と、〔八〕解脱と、勝処と、遍処と、無諍と、願智などと、如来の〔十〕力と、〔四〕無畏と、〔十八〕佛不共法の偉大性*3などを聞く。このようにして、未だ聞いたことのないことを聞く。
【問】どのように、②聞いたことに熟達するのか？
【答】佛陀の出世を、他の者たちから〔聴いた〕者、あるいは現に聴いたと語る者、あるいは、有垢である者、彼は〔法を〕聴くことによって〔垢が〕除かれ、無垢にする。このようにして、聞いたことに熟達する。
【問】どのように、③疑念を捨てるのか？
【答】その心の中に疑いが生じる者、彼は法を聴くことによって確信を得る。
【問】どのように、④見解を真っ直ぐにするのか？
【答】それ（疑念）によって心の中に誤解（邪分別）が生じる者、彼は〔法を聴くことによって〕正しく理解（分別）する〔ようになる〕。
【問】どのように、⑤智慧によって深い意味とことばとを証得するのか？
【答】縁起の法性を聞いて、法性を証得し、聖諦を現証する。

以上の五つの利益によって、三つの慧が完全に浄化されることを示す。すなわち、
①未だ聞いたことのないことを聞き、②聞いたことに熟達することにより、聞所成慧が完全に浄化される。
③疑いが断じられ、④見解を真っ直ぐにすることにより、思所成〔慧〕が〔完全に浄化される〕。
⑤智慧によって深い意味とことばとを証得することにより、修所成慧が完全に浄化される。

これらの利益が現に見られるのだから、正法の聴聞に際して敬意をもって聴くべきである。

*1 グナマティ注によれば、「設定」（rnam par gzhag pa, *vyavasthāna）は「蘊」ないし「証浄」のすべてに係る。

*2 グナマティ注にしたがって「我見取」を「我語取」に訂正する。

*3 この「偉大性」（che ba'i bdag nyid, *māhātmya）を「沙門果」から「佛不共

【3】さらに、正法の聴聞には五つの徳性（yon tan）がある。

①識別していなかったことを識別させ、

②誤って捉えていたことを棄て、

③疑わしいことに決着をつけ、

④決定されたことを中心に据え、

⑤聖者の慧眼を磨くことである。[10]

とある。

【4】さらに、水は、五種の利益をもたらす。

①湿らせるべき粥などを湿らせ、

②身体・衣服・器の汚れを取り、

③夏期の体の暑さを取り除き、

④激しい渇きを鎮め、

⑤草類・［L.4a］穀類・森林を生長させ、大きくする。

同様に、佛説に対する信を生じさせることによって、

①〔熱に〕苦しむ者[11]の相続を湿らせ、

②悪戒という汚れを取り、

法」までに係るものとみなす。

(10) 『釈軌論』第5章からの逐語的引用である。VyY, D shi 122a3-4; P si 142a3-5:
dam pa'i chos mnyan pa la yon tan lnga yod de |
① rnam par mi shes pa rnam par shes par byed pa dang |
② nyes par bzung ba 'dor ba dang |
③ the tshom zos pa nges par byed pa dang |
④ nges par byas pa snying por byed pa dang |
⑤ 'phags pa'i shes rab kyi mig sbyong bar byed pa'o ||
de lta bas na gus par dam pa'i chos mnyan par bya'o ||

(11) 各版の読みは何れも gdung ba（〔熱に〕苦しむ者）。Obermiller 1931: 10は hardened hearts と訳す。しかし出典であるチベット訳『釈軌論』では北京版が gdung を採るものの、デルゲ版および『釈軌論注』のデルゲ・北京両版が gdul（*vineya, 教化対象者）を採る。gdung と gdul との何れが『釈軌論』における原義かは判断しがたいが、『プトン佛教史』では gdung が採られているのは明白であるため、ここでは「〔熱に〕苦しむ者」と訳した。

③欲という苦悩（熱）を取り除き、

④〔輪廻の生存を〕再び生じさせる渇愛を鎮め[12]、

⑤菩提分〔法〕［P.5］に適した徳性という草類・穀類・森林を生長させ、大きくする。

そしてその五種の利益は、信の獲得（①②）と、作業を含む三学（③④⑤）とに関するものであると理解［4b］すべきである。

したがって、その五種の利益を望む者は、敬意をもって佛説を聴くべきである[13]。

---

(12) この②③④は【6】「安全な岸辺の喩え」箇所における①②③とほぼ同一文である。

(13) 『釈軌論』第５章からの逐語的引用である。VyY, D shi 121a5-b2; P si 141a4-8:

sangs rgyas kyi gsung 'di ni chu dang 'dra'o || chu ni phan pa rnam pa lnga byed de |

① 'bras thug po che la sogs pa bangs par bya ba rnams bangs par byed pa dang |

② lus dang gos dang snod dag gi dri ma sel ba dang |

③ sos ka'i lus kyi yongs su gdung ba sel ba dang |

④ skom dad che ba zhi bar byed pa dang |

⑤ rtswa dang 'bru dang nags tshal skyed cing 'phel bar byed pa yin no ||

de bzhin du sangs rgyas kyi gsung la dad pa bskyed pas |

① gdul*1 bya'i*2 rgyud bangs par byed pa dang |

② 'chal ba'i tshul khrims kyi dri ma sel ba dang |

③ 'dod pa'i yongs su gdung ba sel ba dang |

④ yang 'byung ba pa'i sred pa zhi bar byed pa dang |

⑤ byang chub kyi phyogs dang mthun pa'i yon tan gyi rtswa dang 'bru dang nags tshal skyed cing 'phel bar byed pa yin no ||

phan pa rnam pa lnga po de yang dad pa rnyed pa dang | las dang bcas pa'i bslab pa gsum las brtsams par rig par bya'o ||

de lta bas na phan pa rnam pa lnga po de 'dod pas gus par sangs rgyas kyi gsung mnyan par bya'o ||

*1 gdul VyY(D) VyYṬ(DP) : gdung VyY(P)

*2 bya'i VyY(DP) : ba'i VyYṬ(DP)

【5】火は、四つのはたらきをする。

①焼く、

②煮る、

③あたためる、

④照らす。

同様に、佛説という火も、

①〔心身の〕相続が熟した者たちの諸煩悩を焼き、

②相続が熟していない者たちの諸善根を熟成させ、

③生存を喜ぶ者たちを厭離させるために悩まし、

④既に厭離した者たち、疑念を抱く者たち、悪しき道に入った者たちに、道と非道とを正しく教示するために照らす。

したがって、敬意をもって法を聴くべきである。[14]

---

⑭ 『釈軌論』第5章からの逐語的引用である。VyY, D shi 121b2-3; P si 141a8-b3:

mes bya ba bzhi byed de |

① sreg par byed pa dang |

② chos par byed pa dang |

③ dro bar byed pa dang |

④ gsal bar byed pa'o ||

de bzhin du sangs rgyas kyi gsung gi mes kyang |

① rgyud smin pa rnams la nyon mongs pa rnams sreg pa dang |

② rgyud ma smin pa rnams la dge ba'i rtsa ba rnams smin par byed pa dang |

③ srid pa la mngon par dga' ba rnams skyo bar byed pa'i phyir gdung bar byed pa dang |

④ skyo bar gyur pa rnams dang | the tshom zos pa dang | lam ngan par zhugs pa rnams la lam dang lam ma yin pa yang dag par rab tu ston pa'i phyir gsal bar byed pa yin no ||

de lta bas na gus par chos mnyan par bya'o ||

【6】五つの理由（gzhi）が、安全な岸辺（'jug ngogs）に依拠させる。

①垢を落とすため、

②熱を冷ますため、

③渇きを鎮めるため、

④楽しい遊びを体験するため、

⑤こちら岸からあちら岸に到るためである。

佛説という安全な岸辺についても同様である。

①悪戒という垢を落とすため、

②欲という苦悩（熱）を冷ますため、

③〔輪廻の生存を〕再び［L.4b］生じさせる渇愛を鎮めるため、

④〔四〕静慮と、〔五〕神通と、〔四〕無量と、〔八〕解脱などのすぐれた徳性という楽しい遊びを体験するため、

⑤有身という此岸から涅槃という彼岸に赴くためである。

したがって、安全な岸辺に［5a］依拠するという徳性を望む者たちは、敬意をもって佛説を聴くべきである。[15]

---

(15) 『釈軌論』第５章からの逐語的引用である。VyY, D shi 121b3-7; P si 141b3-7:

gzhi lnga dag gis 'jug ngogs bde ba la brten par bya ste |

① dri ma med par bya ba'i phyir dang |

② tsha ba rab tu zhi bar bya ba'i phyir dang |

③ skom pa rab tu zhi bar bya ba'i phyir dang |

④ dga' ba'i rtsed mo nyams su myong bar bya ba'i phyir dang |

⑤ tshu rol gyi 'gram nas pha rol gyi 'gram du phyin par bya ba'i phyir ro ||

sangs rgyas kyi gsung 'jug ngogs bde ba la yang de bzhin te |

① 'chal ba'i tshul khrims kyi dri ma med par bya ba'i phyir dang |

② 'dod pa'i yongs su gdung ba rab tu zhi bar bya ba'i phyir dang |

③ yang 'byung ba'i sred pa zhi bar bya ba'i phyir dang |

④ bsam gtan dang | mngon par shes pa dang | tshad med pa dang | rnam par thar pa la sogs pa yon tan khyad par can gyi dga' ba'i rtsed mo nyams su myong bar bya ba'i phyir dang |

⑤ tshu rol gyi 'gram 'jig tshogs nas pha rol gyi 'gram mya ngan las 'das par 'gro bar bya ba'i phyir ro ||

de lta bas na 'jug ngogs bde ba la brten pa'i yon tan 'dod pa rnams kyis gus par sangs rgyas kyi gsung mnyan par bya'o ||

と〔『釈軌論』に〕説かれている。

（未完）

略号と参考文献

D　Derge（sDe dge）blockprint edition of the Tibetan Tripiṭaka.

P　Peking（Kangxi 1717/20）edition of the Tibetan Tripiṭaka kept in the Otani University Library, Kyoto.

T　大正新脩大藏經。

一次文献：チベット撰述文献

Lam rim chung ngu　skyes bu gsum gyi nyams su blang ba'i byang chub lam gyi rim chung ba（Tsong kha pa blo bzang grags pa）: Tshul khrims skal bzang（Ed.）, *rje tsong-kha-pa'i lam rim chung ngu'i lung khungs gsal byed zla nya*. Chengdu: Si-khron dus deb tshogs pa si-khron mi rigs dpe skrun khang, 2014.

一次文献：インド撰述文献

Uv(tib.)　*Udānavarga*（Tibetan）. Champa Thupten Zongtse（Ed.）, *Udānavarga*, Band III. Göttingen: Vandenhoeck & Ruprecht, 1990.

VyY　*Vyākhyāyukti*（Vasubandhu）: D no. 4061, P no. 5562.

VyYṬ　*Vyākhyāyuktiṭīkā*（Guṇamati）: D no. 4069, P no. 5570.

二次文献

上野 牧生・堀内 俊郎

2018「『釈軌論』第５章翻訳研究（1）」『国際哲学研究』7（刊行予定）

ツルティム ケサン・藤仲 孝司

2005『悟りへの階梯：チベット仏教の原典 菩提道次第論』、京都：UNIO。

西岡 祖秀

1980「『プトゥン仏教史』目録部索引Ⅰ」『東京大学文学部文化交流研究施設研究紀要』

4：61-92。

1981「『プトゥン仏教史』目録部索引Ⅱ」『同上』5：43-93。

ENOMOTO, Fumio

1989 "Śarīrārthagāthā: A Collection of Canonical Verses in the Yogācārabhūmi. Part 1: Text," *Sanskrit-Texte aus dem buddhistischen Kanon 1.* Göttingen: Vandenhoeck und Ruprecht, 17-35.

VAN DER KUIJP, Leonard W. J.

2013 "Some Remarks on the Textual Transmission and Text of Bu ston Rin chen grub's *Chos 'byung*, a Chronicle of Buddhism in India and Tibet," *Revue d'Etudes Tibétaines* 25: 115-193.

2016 "The Lives of Bu ston Rin chen grub and the Date and Sources of His *Chos 'byung*, a Chronicle of Buddhism in India and Tibet," *Revue d'Etudes Tibétaines* 35: 203-308.

OBERMILLER, Eugéne

1931 *History of Buddhism* (*Chos-ḥbyung*) *by Bu-ston.* Part 1. Materialien zur Kunde des Buddhismus Heft 18. Heidelberg: Institut für Buddhismus-Kunde.

1932 ibid., Part 2.

SZERB, János

1990 *Bu ston's History of Buddhism in Tibet.* Wien: Österreichischen Akademie der Wissenschaften.

【謝辞】本稿の一部は上野・堀内 2018における『釈軌論』第５章の翻訳研究に基づく。共訳者である堀内俊郎先生に感謝申し上げる。